

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
1 書くことを基本に自らの考えを整理し、深く思考することによって論理的思考力及び批判的思考力を育成し、課題発見・解決能力を身につけ生きる力を育成する。その際には、主体的・対話的で深い学びを実現する様々な手法を活用する。	① 主体的・対話的で深い学びを実現するために、アクティブ・ラーニングやディスカッションなどを導入するなど、授業の工夫を図っている。	アクティブ・ラーニングやディスカッションにより学習効果が高まる(a 強く + b やや)と感じている生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	a 強く 22.4% (20.0%) [22.1%] b やや 45.8% (48.5%) [48.9%] a+b 68.2% C評価 (68.5% C評価) [71.0% B評価]	「強く」+「やや」が昨年度より2.8ポイント、中間評価より0.3ポイント下降し、C評価となった。昨年比の減少人数は全校で20人程度であるが、アクティブ・ラーニングやディスカッションを取り入れた授業による学習効果の高まりを実感する生徒の割合が昨年比、中間評価比ともに下降している点を重く受け止めなければならぬ。教員側の意識改革と具体的な授業改善が求められている。
	② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場面を設定している。	日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表(発言)する場面(a多く+b時々)を設定している割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	a 多く 27.7% (25.0%) [40.7%] b 時々 59.6% (68.8%) [51.9%] a+b 87.3% C評価 (93.8% B評価) [92.6% B評価]	「多く」+「時々」が中間評価では昨年を上回っていたが、今回は87.3%と昨年度より5.3ポイント下降した。その中でも、「多く」の割合が大きく下がっている。発問の吟味による考える場面の設定や、考えた結果を生徒が表現する場面の設定は、生徒の主体的な学びを実現するために不可欠であり、数値の低下の原因を調査するとともに、教員側の意識向上を図っていききたい。
	③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	1、2年生で平日の平均家庭学習時間が120分以上である生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	学習時間調査 【1年】 28.2% D評価 (40.7% D評価) [44.8% D評価] 【2年】 69.2% C評価 (61.7% C評価) [49.6% D評価]	1年生は前年度同時期、中間評価時期ともに下回り、下げ幅が昨年比16.6ポイントと大きい。それに対し2年生は前年同時期、中間評価時期とも上回っており、特に前年同時期比で19.6ポイント向上している。今後は、1年生の学習時間の増加に向け、担任、授業担当者、部活動顧問がそれぞれの立場でそれぞれの学年における家庭学習の必要性を再認識させていきたい。
	④ 朝学習の充実により、主体的に思考を深める習慣を身につける。	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【1年】 70.3% B評価 (79.0 B評価) [70.8 B評価] 【2年】 72.1% B評価 (76.6 B評価) [81.5 A評価] 【3年】 81.7% A評価 (80.1 A評価) [77.5 B評価] 【全体】 74.7% B評価 (78.6 B評価) [76.6 B評価]	【1年】 前回と比べて、8.7ポイント下降している。落ち着いた雰囲気朝学習に取り組んでいるが、曜日固定で各教科の小テストや「思考の時間」に設定してあることが「定着」というメリットの側面と「パターン化」、あるいは小テストの結果と連動した放課後の学習会に対して「負担」というネガティブな捉え方をしている部分もあると思われる。例えば、英語検定の直前はその対策の時間に充てるなど、機を見て内容を柔軟に変更することが必要であると思われる。 【2年】 前回より4.5ポイント減少しているものの、朝の小テスト対策を自宅での勉強のきっかけとして、学習習慣の形成に役立っている意欲的な生徒は増えてきている。再テストや学習会を経る中で、学力がついたと実感するのだと思われる。自主的な学力向上への意欲を見せる生徒が、より増えること期待したい。 【3年】 どの教科も小テストを中心に朝学習を行った。不合格者の追いかけてことん取り組んだため、最後まで諦めずに頑張る生徒は多く効果が上がった。しかし、徐々に取り組みが甘くなる生徒も見られ、事後指導が来年度の課題となる。
学校関係者評価委員会の評価		論理的な思考を身につける取り組みを授業の中で行うのは大変かもしれないが重要なことなので是非進めて欲しい。単に「理解しやすい」だけでなく、「難しい」ものに取り組みさせることも必要である。また、それを取り組む上では、「習慣」が重要になると思われるので、学校だけでなく、家庭と協力して取り組むような体制を作っていくとよいのではないかと。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		これまで取り組んできた「思考する授業」や授業改善のための様々な取り組み、さらに総合的な探究の時間の活動などで、思考力を身につけられるように取り組んでいく。家庭学習時間についても、時間だけでなく内容も吟味し、保護者の方々にも理解を深め協力していただけるように働きかけていく。		

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
2 個別面談や学習活動を通じたきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、生徒の進路意識を高め、設定した進路目標を実現するために自ら能動的に学習し、学力を高める努力をするような意識づけを行う。	【1・2年】9月の進路志望調査で、国公立大学を目標とする生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上 【3年】9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が A 80人以上 B 60人以上 C 40人以上 D 40人未満	【1年】 94.3% A評価 [90.1% A評価] 【2年】 90.1% A評価 [89.5% B評価] 【3年】 99名 A評価 [83名 A評価]	【1年】 保護者対象の文理選択説明会を前年比で1ヶ月早めることや夏季補習中の進路学習を工夫するなど、従来からの早期の進路意識の涵養と学習への意識付けの取組をさらに改善したこともあり、過去最高の国公立志望割合となった。 【2年】 1年次より継続して生徒の進路意識を高め、クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、高い志望を掲げ学習に取り組ませたことにより、1年時と同割合の90.1%で、昨年度に続きA評価と高い数値を維持した。 【3年】 金沢大学以上を目標とする生徒の割合が昨年度の3年生の27%を大きく上回る37%となり、過去最高となった。高い志望を叶えた先輩たちの存在やすべての授業に真剣に取り組むことにもつながる、国公立を目標とする指導の成果である。
	② 進路指導課と各学年、教科との進路指導方針の共有により、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	1、2年生の学力試験で国語、数学、英語の各教科の全国偏差値が、 A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満	※()は7月進研、< >はH30年11月進研 【1年】国語48.6 B評価 (49.1 B評価) [48.5 B評価] 数学49.6 B評価 (50.1 A評価) [47.7 C評価] 英語45.8 C評価 (47.0 C評価) [46.2 C評価] 【2年】国語49.2 B評価 (48.2 B評価) [48.8 B評価] 数学48.7 B評価 (47.1 C評価) [50.2 A評価] 英語45.8 C評価 (46.5 C評価) [47.1 C評価]	11月進研模試の3教科総合全校偏差値は、1年が47.8、2年が47.5であり、1年は7月をやや下回るも、前年度比ではやや上回った。2年は7月比では同程度であったが、前年度比で下回った。特に2年は上位者数も過年度比では少ないため、過去に同様の成績動向でありながら、進路実現の達成に成果があった学年の取組も参考にしつつ、3年0学期といわれる3学期の取組を工夫して学習習慣の確立と学力の伸長に力を注いでいかなければならない。
	③	1、2年生の国語・数学・英語の学力試験全国偏差値54以上の生徒が、 A 55人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満	※()は7月進研、< >はH30年11月進研 【1年】 40名 C評価 (36名 D評価) [15名 D評価] 【2年】 34名 D評価 (35名 D評価) [49名 B評価]	1年は、この評価の人数では7月の人数をさらに上回っているが、偏差値50では人数を減じており、今後対応を検討していきたい。 2年は、平均偏差値の動向ではまだ厳しい状況が続いているが、54以上の人数は前年に近づいている。一方で、受験の記述力の指標となる文系国数英、理系数理英では、文系が減っているが理系は近年と同程度であるため、特に文系上位層の育成を意識した取組をはかっていたい。
	④	金沢大学以上の国公立大学合格者数が、 A 15人以上 B 10人以上 C 5人以上 D 5人未満 国公立大学合格者数が、 A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 50人以上 難関私立大学合格者数が、 A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満	金沢大学以上の国公立大学合格者数 6名 C評価 大阪大1、大阪市立大1、金沢大4 国公立大学合格者 94名 評価A 難関私立大学合格者7名 D評価 慶應義塾大1、青山学院大1、中央大2、明治大2、立命館大1	4年前の特進クラス・エクスード設立以来継続していた旧帝国大学現役合格が途絶え、浪人生の1名のみが旧帝大への合格を果たすに留まった。新テスト前年入試の特徴である、全国的な現役志向の傾向が、難関大受験層にも影響を与え、例年本校上位者が受験対象としている難関大の挑戦圏内大学や学部の新化につながったためである。 2年前の創立以来最大であった89を上回る合格数94となり、最高数値を更新、4年連続で在籍者数のおよそ25% (70名)をこえる高水準を継続した。安全志向の強い今期の入試の逆風の中、在校生のみでも91名の合格となり、こちらも過去最高の結果となった。 昨年度につづき、私立大学や専門学校などを志向する私立文系クラスの上位生徒が多様な進路を志望する生徒たちであったことと近年の全国的な私立大学入試の難化傾向に新テスト前年の安全志向と私立受験増が影響し、現役生の難関私立大学の合格者数は奮わなかった。その一方で、地元私立大学では理系の合格者数が増加した。
学校関係者評価委員会の評価	・早期に志を立てるといふ指導は大変よいと思う。それをより具体化し本人の意欲を高めるために、例えばオープンキャンパスへの参加奨励など色々な取り組みを進めるといのではないかと。 ・生徒を中心にすえて、数字で見られるような目標だけでなく、数字で測れないことも大切にしたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・高い志を持つことができるような様々な仕掛けをさらに検討していきたい。特に、単に「進学」ということではなく「キャリア」を考えることができるよう、また、より具体的な目標を持つことができるよう指導を進める。			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
3 部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神の涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者に「朝の挨拶運動」を始めとしたPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が4以上の割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	23.9%:D評価 [13.8%:D評価]	7月時点で3回以上来校は約30%であった。その後明倫祭、教育ウィーク、文理選択説明会もあり、複数回の来校を期待したが、保護者懇談以外に来校されない保護者が多いのではないかと推測される(入学式を除く)。生徒の日々の様子や様々な行事での活躍ぶりを、ぜひ保護者の方にも見ていただきたいので、来校する機会の拡大やHPなどでの広報について検討していきたい。
	② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	ホームページ上の更新回数が、 A 120回以上 B 90回以上 C 60回以上 D 45回未満	120回以上 A評価 [200回以上 A評価] 明倫topics だけでも109回、その他(月間行事計画、学年通信、保健だより、明倫祭や吹奏楽部イベントお知らせ、部活動ニュース、明倫新聞、ALTエッセイ、奨学金お知らせ、など)多数更新	学年、部活動、各課の協力で楽しくタイムリーな記事が常時アップデートされた。よく記事を見ていて、アイデアやリクエストを出してくださる方もおられる一方で、ホームページをみたことがないという保護者が約半数となっているのが残念である。個人情報保護に関する制限もあるが、「いつ見ても楽しい」「役に立つ」記事をできるだけ多く届けていきたい。
	③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上を目指す。	1、2年生の部・同好会活動(外部団体での活動含む)の加入率が、 A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	※()は9月、< >はH30年12月 12月の1、2年生の部・同好会活動(外部団体での活動含む)の加入率加入率 【1年】97.8%(97.9%)[95%] 【2年】83.7%(89.1%)[81%] 【全体】90.8% A評価 (93.5%A評価)[88% B評価]	4月当初の部活動加入率1年生は100%、9月97.9%、1月97.8%。2年生は9月89.1%、1月83.7%。昨年度比で1・2年生共に約3%弱上回っている。今年度から部活動の制限を厳格に守り活動時間・日数が減ったことについて、個々の生徒の受け取り方は様々でのようであった。限られた活動時間・日数の中で、各々が目標に向けて日々、取り組むことで、文武両道の充実した高校生活になるように支援していきたい。
	④ 明倫祭の外部公開の継続と、校内開催と校外開催の内容充実と、近隣商業施設、小中学校でのポスター掲示など広報活動を活発にすることで、来場者数の増加を目指す。	1日目の来場者数が、 A 900名以上 B 700名以上 C 500名以上 D 500名未満	1日目の来場者数 995名 A評価[814名 B評価] 参考 2日目及び合計の来場者数 2日目 299名[476名] 合計 1294名[1290名]	令和元年度明倫祭の入場者数は、1日目が日曜日だったためか、昨年の土曜日開催より184名の増、一昨年より228名の増加となった。増加は、高校生(友人)や家族の割合が大きい。その反面、2日目は例年の日曜日から月曜日開催になったため、299名と例年の450名前後から大きな減となった。今年度の新たな取り組みとしては、全生徒に友人への招待券の一人2枚配布を徹底した。このことも来場者数の増加につながったと考えられる。
	⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示、公共図書館の司書を招いてのビブリオバトルなど地域と連携した活動を行うことで発信・表現力を育てる。	地域と連携した図書委員会活動の回数が、 A 年間10回以上 B 年間8～9回 C 年間6～7回 D 年間6回未満	11回実施 A評価[8回:B評価]	県立図書館の方を招いて数年ぶりにビブリオバトルを復活、カレード職員による読み聞かせ講習会、それを受けて放課後子ども教室・ほりうちこども園での絵本リーディング実習を実施した。明倫祭では来校した小中学生や親子の人が古本市・しおり作り・クイズを楽しんでいた。2学期以降は書店員によるポップ作成講習会、カレード見学を実施した。また、公共図書館職員・小中学校司書、また西田幾多郎記念哲学館から資料の提供を受け企画展示をした。今年度は行事を1回増やせたので、今後は現状を維持しつつ質の向上に努めていく。
学校関係者評価委員会の評価		・見られないと伝わらないという課題はあると思うが、ホームページを使った情報発信はよいと思うのでさらに進めて欲しい。普段の様子なども含めて、学校側からさらに情報発信があればよい。 ・明倫祭は、活気がある様子や生徒の色々な一面が見られて、保護者や地域の人にとっても非常によい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		・ホームページやメール配信での適切な情報発信に取り組みたい。ホームページも、行事や部活動、日常のちょっとしたことなど、情報発信の質と量を高めていきたい。 ・明倫祭は、保護者の皆様が積極的に協力してくださるので、それを活かしつつさらによりものとなるよう考えていきたい。		

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりとできる人間の育成を図る。	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりとできた生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	よくあてはまる 26 % (26 %) ややあてはまる 52.1% (54.8%) 全体 78.1% B評価 (80.8% A評価) [できた 73.0% B評価] 参考:昨年度は、「できた」と「できなかった」の二択回答	12月学校評価アンケート結果では、7月よりもやや当てはまると答えた生徒が2.7%下がっている。生徒の有志が挨拶運動を継続しているが保護者の挨拶運動が実施されない期間になり、下がった可能性も考えられる。授業の始めと終わりの挨拶だけでなく、教職員が積極的に生徒への挨拶をするように努めたい。
	② 登校指導や生活指導などにより、自ら身なりを正すことを通じて、規範意識を育成する。	制服を意図的に正しく整えている生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	よくあてはまる 66.0% (76.0%) [70.0%] ややあてはまる 31.1% (21.9%) [27.0%] 全体 97.1% A評価 (97.9% A評価) [97.0% A評価]	12月学校評価アンケート結果では、7月よりも、よく当てはまると答えた生徒が10.0%減少し、ややあてはまると答えた生徒が9.2%増加している。保護者アンケート結果においても同じような傾向が見られたので、全職員が共通理解をもって、生徒への指導を徹底し改善を図っていききたい。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	よくあてはまる 73.0% (71%) [77.0%] ややあてはまる 23.7% (24%) [19.0%] 全体 96.7% A評価 (95.0 A評価) [96.0% A評価]	12月学校評価アンケート結果では、7月よりも、よくあてはまると答えた生徒が2%増え、良い傾向である。しかし、自転車通学では並進・イヤホン装着・傘さし運転の生徒がまだ多く見られる。生徒には登校指導だけでなく、ST・授業・部活動などあらゆる機会に交通安全・命の大切さについて指導していく。
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒の割合が、 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	自発的複数回 7.8% (6.5%) [4.5%] 自発的 9.7% (13.3%) [7.6%] 全体 17.5% D評価 (19.8% D評価) [12.1% D評価]	具体的取組として、ボランティア活動への積極的な参加を促している。教員側から参加を呼びかけると、多くの生徒が参加に応じた。参加した生徒数は、のべ592名で全校生徒の約72%である。自発的に参加した生徒の割合は昨年度から5.4%向上したが、7月からは低下している。今後も更に意識の涵養と機会の提供を進めていきたい。
	⑤ 生徒の良好な人間関係を支援する。	学校生活が楽しいと感じる生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	よくあてはまる 44.7% (46.6%) [45.0%] ややあてはまる 39.5% (39.0%) [38.7%] 全体 84.2% B評価 (85.6% B評価) [83.7% B評価]	昨年度最終評価よりはやや上回っているが、中間評価1.4%を下回る結果となった。中間評価から下がった原因は1年生の4.8%減が目立つ。学年間比較では2年生が他学年と比較してやや低い。学年会等とも連携して要因を把握し、対策を考えていきたい。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	生徒の変化に対して a(素早く対処し、解決に至った)、b(素早く察知し、対応することができた)の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	よくあてはまる 39.0% (8.3%) [55.4%] ややあてはまる 59.0% (81.3%) [44.6%] 全体 98.0% A評価 (89.6% B評価) [100% A評価]	中間評価90%を上回る結果となったが、昨年度最終評価は100%であったので、そこから見れば低下している。先生方が常に生徒の様子に気を配り、素早く適切な対応に努めてようとしていることが窺える。様々な課題を抱える生徒たちに対して、今後も一層注意深く取り組んでいくことが必要である。
	⑦ 歯科検診の結果で健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合が、 A 75%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	歯科検診の結果から自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合が、 A 75%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	1年生 70.8% [80.8%] 2年生 57.8% [70.5%] 3年生 54.5% [57.7%] 全体 59.8% C評価 [67.2% B評価]	昨年度から大きく数値が下がってしまった。学年が上がるほど受診率が低く、部活動や学習等を優先していることが原因と考えられる。また、昨年度受診しなかった生徒が今年度も受診しない傾向があり、虫歯や歯周病の害を理解させ、引き続き個別に指導していく必要がある。
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介冊子の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書や読書タイムといった読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が、 A 6.0冊以上 B 5.0冊以上 C 4.0冊以上 D 4.0冊未満	年間貸出冊数 2455冊 一人当たり 3.0冊 D評価 [1.8冊:D評価]	11月以降2、3年生の貸し出しは伸びたが1年生の貸し出しが最も少ない。来年度は、全体オリエンテーションとクラス別オリエンテーションを実施し、最初のうちに図書館を利用するよう強く働きかけることを考えている。また、図書課だけでは利用や貸し出しを増やすには限度があるため、来年度は教員から授業等を通じて図書館利用や読書を勧めるなど、学校全体での取り組みも考えていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・「学校が楽しい」と感じている生徒が多いのはよいと思うが、世間ではいじめや不登校といったことが問題視されている。それらに対してしっかりと対処して欲しい。 ・「健康」の重要性をしっかりと理解し「自己管理」ができるようにすることが重要なので、それらについてもしっかりと取り組んで欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・いじめはどこでも起こりうることを前提として、人間関係やコミュニケーションのとり方などを考えられるようにしていく。不登校に対しては、個に応じた指導ができるよう体制を整える。 ・保健環境課や体育課、学年団などが協力し、健康教育や自己管理のための指導を進めていく。			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)																														
5 教職員の資質や指導力の向上を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	① 業務の軽減や負担の分散、時間管理の促進などにより、職員の多忙化改善を進める	時間外勤務が80時間を超える教職員の月平均の人数が、 A 3.0人未満 B 4.0人未満 C 5.0人未満 D 5.0人以上	<table border="1"> <tr> <td>月</td> <td>4月</td> <td>5月</td> <td>6月</td> <td>7月</td> <td>8月</td> <td>9月</td> <td>10月</td> <td>11月</td> <td>12月</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>(昨年)</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>0</td> </tr> </table> 月平均 5.1人(中間 5.6人)[昨年 8.0人] D評価	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	人数	5	6	7	7	3	4	3	6	0	(昨年)	11	12	8	9	4	8	6	6	0	対前年比でも対前回比でも改善しているが、目標には到達していない。行事の精選、業務の内容や方法の見直しなどを進め、業務の削減や効率化、負担の平準化を図っていくことが必要。また、教育の質を確保することや生徒や保護者など周囲の理解、職員の勤務時間に対する意識改革にも取り組んでいかなければならない。
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月																									
人数	5	6	7	7	3	4	3	6	0																									
(昨年)	11	12	8	9	4	8	6	6	0																									
学校関係者評価委員会の評価	・時間外勤務時間は減っているようだが、負担の軽減は本当にできるのか。例えば、学校でできないものを家に帰って行ったりしているのではないかと併せて教育水準を保つことも求められる。より一層の改善を進めて欲しい。																																	
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・新たな取り組みなどで業務が増えるものも多いが、増えれば何かを減らすといった視点で、教育の質を維持しつつ業務の縮減や業務効率の改善を図りたい。また、ワークとライフの両方に対する教員の意識啓発を進める。																																	